

ペットに関するアンケート調査結果

生活衛生課

1 調査目的

県では、動物の愛護と適正飼養の推進を目的とした「岐阜県動物愛護管理推進計画(令和3～令和12年度/令和7年度見直し予定)」を策定し、各保健所及び動物愛護センターで様々な取組みを実施しています。

県民の皆さんの動物愛護に対する意識の動向等を把握し、今後の施策の基礎資料とさせていただきますため、アンケート調査を実施しました。

2 調査対象等

調査対象: 県政モニター839人(郵送モニター:198人 インターネットモニター:641人)

調査方法: 郵送及びインターネット

調査期間: 令和6年8月6日～8月26日

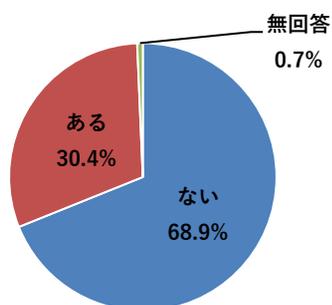
回収結果: 740人(回収率:88.2%)

構成比はパーセントで表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しています。

そのため、合計が100%にならない場合があります。

3 結果概要

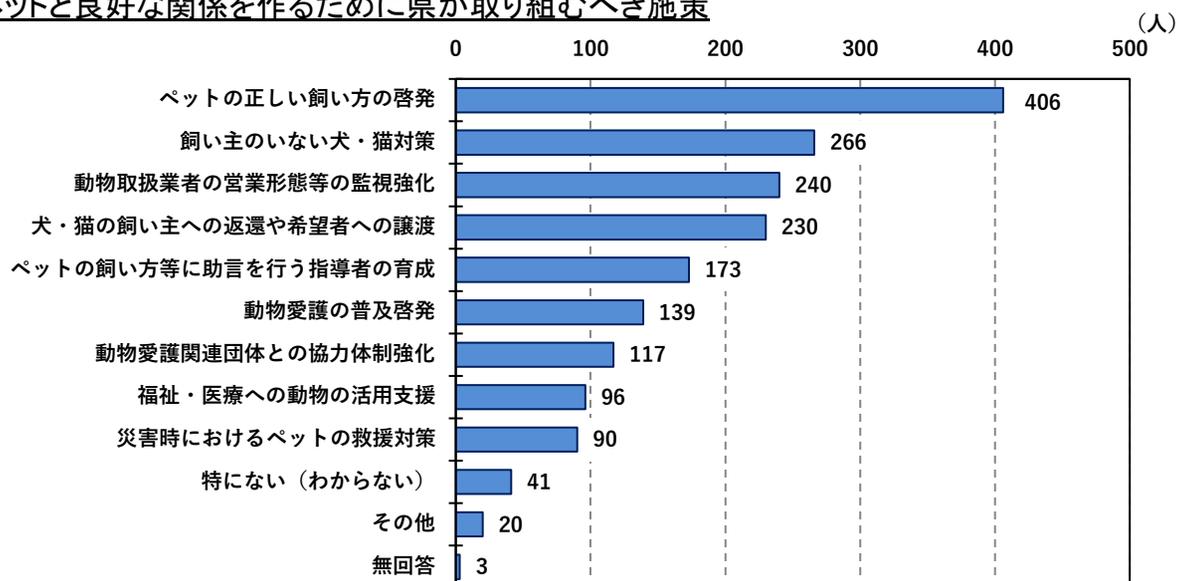
他人のペットを迷惑だと感じたことはあるか



「ある」の具体的な内容(主なもの)

- ・糞尿による被害
- ・早朝、夜間の鳴き声
- ・放し飼い、リードなしでの散歩
- ・他人の敷地内への侵入

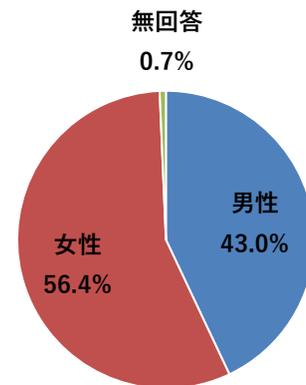
ペットと良好な関係を作るために県が取り組むべき施策



4 回答者属性

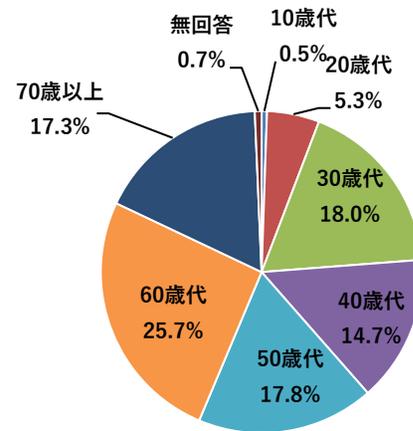
(1) 性別

	人数	割合
男性	318	43.0%
女性	417	56.4%
無回答	5	0.7%
計	740	100.0%



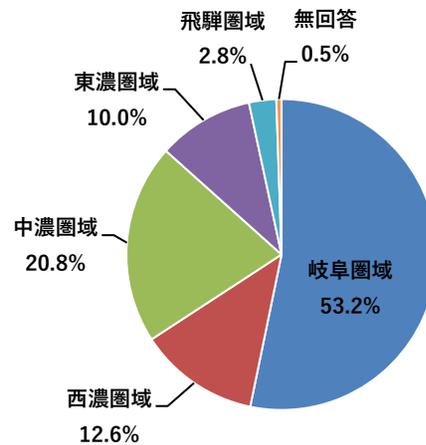
(2) 年代別

	人数	割合
10歳代	4	0.5%
20歳代	39	5.3%
30歳代	133	18.0%
40歳代	109	14.7%
50歳代	132	17.8%
60歳代	190	25.7%
70歳以上	128	17.3%
無回答	5	0.7%
計	740	100.0%



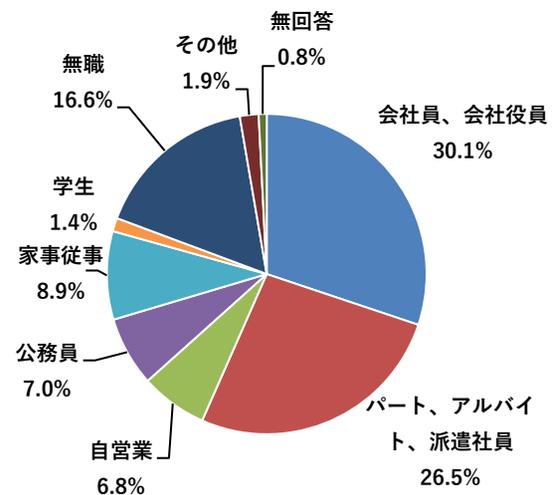
(3) 居住圏域別

	人数	割合
岐阜圏域	394	53.2%
西濃圏域	93	12.6%
中濃圏域	154	20.8%
東濃圏域	74	10.0%
飛騨圏域	21	2.8%
無回答	4	0.5%
計	740	100.0%



(4) 職業別

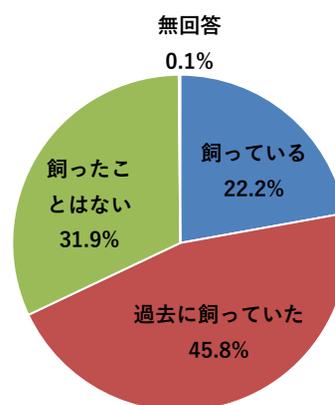
	人数	割合
会社員、会社役員	223	30.1%
パート、アルバイト、派遣社員	196	26.5%
自営業	50	6.8%
公務員	52	7.0%
家事従事	66	8.9%
学生	10	1.4%
無職	123	16.6%
その他	14	1.9%
無回答	6	0.8%
計	740	100.0%



5 調査結果

問1 あなたは、ペットを飼っていますか。

	回答数	割合
飼っている	164	22.2%
過去に飼っていた	339	45.8%
飼ったことはない	236	31.9%
無回答	1	0.1%
計	740	100.0%

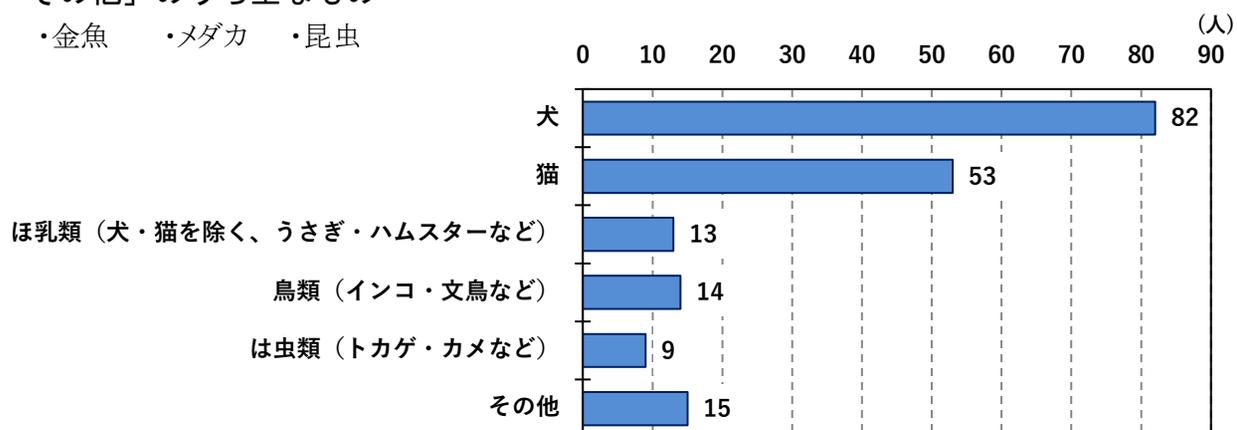


問2 【問1で「飼っている」と答えた方にお尋ねします】
あなたは、現在、どのようなペットを飼っていますか。
回答者 164人（複数回答）

	回答数	割合
犬	82	50.0%
猫	53	32.3%
ほ乳類(犬・猫を除く、うさぎ・ハムスターなど)	13	7.9%
鳥類(インコ・文鳥など)	14	8.5%
は虫類(トカゲ・カメなど)	9	5.5%
その他	15	9.1%
計	186	-

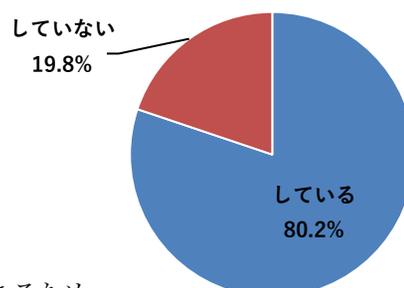
「その他」のうち主なもの

・金魚 ・メダカ ・昆虫



問3 【問2で「犬」または「猫」と答えた方にお尋ねします】
あなたは、飼っている犬・猫に対して不妊・去勢手術をしていますか。
回答者 126人

	回答数	割合
している	101	80.2%
していない	25	19.8%
計	126	100.0%



「していない」理由のうち主なもの

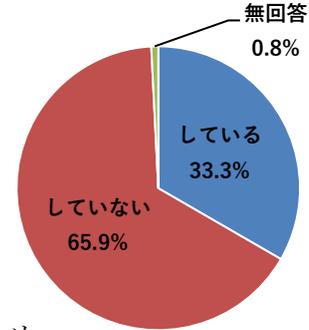
・室内で飼育しているから ・手術に対して抵抗があるため

問4 【問2で「犬」または「猫」と答えた方にお尋ねします】

あなたは、飼っている犬・猫にマイクロチップを装着していますか。

回答者 126人

	回答数	割合
している	42	33.3%
していない	83	65.9%
無回答	1	0.8%
計	126	100.0%

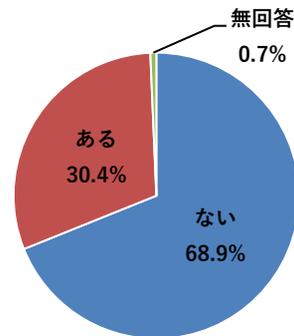


「していない」理由のうち主なもの

- ・完全室内飼いのため。
- ・ペットの体に影響がある恐れがあるため。
- ・必要性を感じないため。
- ・知らなかったため

問5 あなたは、直近1年以内に他人のペットを迷惑だと感じたことはありますか。

	回答数	割合
ない	510	68.9%
ある	225	30.4%
無回答	5	0.7%
計	740	100.0%



「ある」の具体的な内容（主なもの）

- ・糞尿による被害
- ・早朝、夜間の鳴き声
- ・放し飼い、リードなしでの散歩
- ・他人の敷地内への侵入

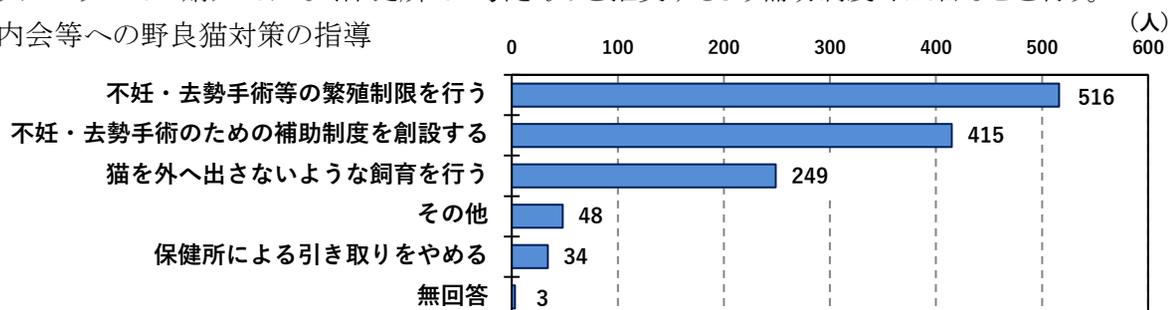
問6 あなたは、どうすれば殺処分される子猫を減らすことができますか。

回答者 740人（複数回答）

	回答数	割合
飼い主が自己責任で不妊・去勢手術等の繁殖制限を行う	516	69.7%
飼い主が不妊・去勢手術を受けやすいよう補助制度を創設する	415	56.1%
猫を外へ出さないような飼育を行う	249	33.6%
その他	48	6.5%
保健所による引き取りをやめる	34	4.6%
無回答	3	0.4%
計	1,265	-

「その他」のうち主なもの

- ・ペットショップ及びブリーダーの販売規制の強化
- ・登録制にして、安易に飼えないようにする。
- ・ペットを飼育する前に講習を実施する。
- ・飼い主への事前教育の実施
- ・ペットショップでの購入ではなく保健所での引き取りを推奨するよう補助制度や広告などを行う。
- ・町内会等への野良猫対策の指導



問7 あなたは、ペットとの良好な関係をつくるために、県はどのような施策に取り組むべきだと思いますか。

回答者 740人（複数回答）

	回答数	割合
ペットの正しい飼い方の啓発(しつけ方教室の開催等)	406	54.9%
飼い主のいない犬・猫対策(不妊・去勢手術費の助成等)	266	35.9%
動物取扱業者(ペットショップなど)の営業形態等の監視強化	240	32.4%
保護された犬・猫の飼い主への返還や希望者への譲渡	230	31.1%
ペットの飼い方等に助言を行う指導者の育成(動物愛護推進員研修の開催等)	173	23.4%
動物愛護の普及啓発(小学生を対象にした動物愛護教室の開催等)	139	18.8%
動物愛護関連団体との協力体制強化(譲渡活動の推進、ボランティアの育成等)	117	15.8%
福祉・医療への動物の活動支援(アニマルセラピーなど)	96	13.0%
災害時におけるペットの救援対策(被災動物の収容施設の設置等)	90	12.2%
特にない(わからない)	41	5.5%
その他	20	2.7%
無回答	3	0.4%
計	1,821	-

「その他」のうち主なもの

- ・ペットを飼う際に研修を必須にする。
- ・県や行政がペットを飼っている家庭を把握する。ペット飼育家庭の名簿などを作成する。
- ・飼い主の違反行為に対する罰則を設ける。

